



筑波大学新聞 第296号

雑誌名	筑波大学新聞
号	296
発行年	2011-11-07
URL	http://hdl.handle.net/2241/00123356

発行所
筑波大学
茨城県つくば市
天王台1-1-1

くも、創業者マーク・サッカーバーグの周りの数人の大学生から始まった。今や世界最大のSNSだ。きっかけは小さくても、時代の流れに合った仕掛けと、それを育てる才能と熱意があれば物事は進むのだ▼いつ故郷に帰れるかもまだ分からない福島の子供達。あの笑顔を絶やさないために私たちには今何ができるのだろう。震災後本学でも、専門研究から学生のボランティア活動まで、被災地へのさまざまな支援が行われた。そのつながりをどう保ち、大きくするかが今後の課題だ。

第1回筑波宇宙フロンティアフォーラム

JAXAの國中教授が講演

宇宙ミッションを発信

はやぶさについても語る



イトカワ（右下）と月を比較

第1回筑波宇宙フロンティアフォーラムが10月29日に1101教室で開催された。このフォーラムは「筑波大学から宇宙ミッションを」がテーマ。本学宇宙航空開発研究機構（JAXA）、産業技術総合研究所（AIST）などで行われている宇宙に関連した幅広い分野の研究を紹介することで相互の交流を深めることを目的としている。

「はやぶさ小惑星探査機の深宇宙走破」では、はやぶさに搭載された独自のエンジンである「イオンエンジン」を開発したJAXAの宇宙科学研究所の國中均教授が講演した。構想から実証・性能達成まで10年もの時間を要したイオンエンジンが、推進力は低いが高時間の連続動作が可能だ。國中教授はそのイオン

エネルギーの構造や、はやぶさ搭載に至るまでの道のりを解説した。「イトカワのような小さな惑星に行き何になるんだという海外からの負の応援を受けて頑張った」と國中教授は語った。

現在、はやぶさを計画しており、2014年に打ち上げ、2020年に帰還予定だ。次は太陽光を使ったエンジンを開発中で、50tにもなる巨大膜面太陽電池のエンジンを搭載する予定だ。

國中教授は「はやぶさは技術者、科学者の総力を結集し、粘って7年間の半宙航海を全うし地球帰還を果たした。小さな技術革新が世界を先導し、次の未来を開いた。努力して自分たちが作ったものが未来を開く」と自身の経験を踏まえ、熱く語った。

他にもパネル展示や次世代の宇宙技術、社会に役立つ宇宙医学などの講演があった。参加者の高山孝考さん（情科1年）は「普段聞けないような話が聞けた、とても貴重な講演でした。専門的な知識を持っていないくても理解しやすく、新たな発見もありました。このようなフォーラムがこれからも行われていけばいいと思います」と話した。

「七沢氏のお話を直接聞くことができて大変うれい。自分の使命や責任をしっかりと果たす強い意志のある人だと感じた」と語った。

本講演会の様子は、動画投稿サイト「YouTube」で公開される予定だ。

発生の可能性が示唆される南海トラフ巨大地震については、震源域が陸に近いために、東日本大震災で発生した津波よりも、ずっと早く陸に到達すると警告した。西日本には日本の全人口の30%以上が居住し、農業、工業生産と製油所、火力発電所などの重要構造物が集中する。東日本大震災発生後に寸断された太平洋側の輸送路に替わって使用された日本海側の物流網のような予備の輸送路も未発達であることから、社会的な影響の大きさを指摘。東日本大震災を受け、「従来の常識を捨て、地震津波の最大シナリオを見直し、対策を急ぐべき」と訴えた。

古村氏は「地震津波観測とシミュレーションを融合した、次世代津波防災システムの構築を実現させた」と研究の抱負を語り、「自分の家が耐震基準を満たしているからといって安心できない。身を守るために、家具の固定を行うことは大切。自治体の補助を使って専門家に工事を任せると、個々人でしっかりと地震に備えて」と呼びかけた。

講演会や研究発表を実施

留学生のホームステイも

ウズベキスタン・日本学生学術フォーラム2011



学内では立食パーティも行われた

10月29、30日に行われ、学術発表、文化の紹介、講演会などが行われた。昨年度古里大学で第1回フォーラムが行われ、今回は2回目の開催。名古屋大学や早稲田大学などからも学生が参加し、100人を超える参加者が訪れた。

本学は、2007年にウズベキスタンの首都タシケントに中央アジア国際連携センターを開設し、昨年度には中央アジア地域からの留学生が70人を超えるなど、ウズベキスタンとの交流が盛んに行われている。

こうした関係から、ウズベキスタン大使館が本学での開催を強く希望し、今回のフォーラムが開かれるに至った。

フォーラムでは有識者による基調講演の他、25人の学生による言語、社会、政治、経済などさまざまな分野の研究発表が行われた。参加者は学生たちの発表に熱心に耳を傾けていた。発表を行った斎藤竜太さん（国地2年）は「2年前から現地調査を始めた研究を発表できてうれしい。留学生の視点は新鮮で、いい刺激になった」と話した。

フォーラムの一環として、ウズベキスタン人留学生のホームステイがつくば市、土浦市などで行われた。ホームステイに参加した早稲田大学のノディル・ヤラシェフさんは「家族と離れて暮らしているのが、家庭を思い出して懐かしい。普段話さない年代の人と話せるのが楽しい」と話した。

留学生を受け入れたつくば市に住む白木由美子さんは「ペリヤダンスが趣味のためウズベキスタンに興味があったものの、場所や歴史は今回初めて知った。ウズベキスタンの話をたくさん聞きたい」と話した。

学生実行委員長の伊藤文さん（国地2年）は、「学生が研究を発表する機会が少ないので、今回のフォーラムは貴重な機会になる。フォーラムはあくまでも通過点で、今後も良好な関係を築いていきたい」と語った。

睡眠中に気道がふさがり、呼吸が何度か止まってしまふ睡眠時無呼吸症候群。従来は、肥満の中年男性が主な患者であるとされてきた。だが、本学の佐藤誠教授（医学医療）の調査で、やせ型や標準体型でも死、動脈硬化や糖尿病になる

睡眠時無呼吸症候群

やせ型や標準体型も発症

睡眠のあり方見直しを

睡眠中に気道がふさがり、呼吸が何度か止まってしまふ睡眠時無呼吸症候群。従来は、肥満の中年男性が主な患者であるとされてきた。だが、本学の佐藤誠教授（医学医療）の調査で、やせ型や標準体型でも死、動脈硬化や糖尿病になる

る恐れもある。あおむけの体勢で寝ている時はあごの関節がゆるんで気道が狭まり、呼吸に伴い空気が振動する。これがいびきの原因だが、肥満体形の人の場合は舌の周りの脂肪が狭まり、脂肪がつき、気道が詰まることで、呼吸ができなくなる。だが佐藤教授の調査で、肥満でなくともあごの小さい人、へんどう腺が肥大しがちな子供も無呼吸症候群

になる恐れがあるとわかった。佐藤教授が睡眠時無呼吸症候群と診断された8857人の患者の肥満度（BMI）を調べたところ、43%の患者は標準「痩せ」だった。太っていない人が無呼吸症候群となる原因として、あごが小さい、舌やへんどう腺が肥大しているなどが挙げられる。欧米人と比べ、骨格が元から小さい日本人は、少し太っただけでも気道がつまり、肥

満でなくとも無呼吸状態になる患者が特に多い。「昼間いつも眠い、目覚めがすっきりしない、夜に何度か目を覚ます」という人は要注意。寝ている間に無呼吸状態になって何回も起きていたため、常に睡眠不足状態になっている」と佐藤教授は指摘する。

治療法としては、まずダイエットが挙げられる。骨格に問題がある人は、マウスピースや、マスクを着けて空気を送り込むCPAP療法、重度の患者にはあごの整形手術を行う。

だが、無呼吸症候群は生活の変化から発症するたため、生活習慣病と言ったこともできる。「治療するほどでなくとも、2人に1人が発症している可能性がある。普段の生活の中で、睡眠というものをと大切にしたい」と佐藤教授は話す。

NHK 武田真一アナウンサー講演 災害放送の今後について語る

視聴者に行動を促す放送を

本学OBでNHKチーフアナウンサーの武田真一氏(平成2年度社会学類卒)の講演会「命を守る放送をめざして」が学園祭2日目の10月9日に、1D201教室で行われた。武田氏は東日本大震災発生直後の放送に携わったことについて「言葉が命を救うのに役に立たず、無力感を感じた」と話し、今後あるべき災害放送についてを中心に語った。会場には多くの人が詰めかけ、立ち見が出るほどの盛況ぶりだった。

武田氏はスライド上で、震災報道に携わった他のアナウンサーの手記を紹介。手記には「マニュアルに従い、停電前に津波の情報を伝えられなかった」という悔恨や「東北勤務経験で得た災害関連の知識が固定観念となり、想像性を失っていたのでは」と葛藤する様子の記述が見られた。

災害時の放送に対する一般視聴者からの意見もあわせて紹介。「細かい地名を加えるべき」、「プライバシーを意識するより、とにかく現状を伝えてほしい」といった声があったという。「災害時の放送と通常放送とではプライオリティ(優先事項)が変わってくる。人命を守るための災害放送は『視聴者に確実に伝わり、行動を促し予断を与えない放送』であるべき」と話した。

講演後の質疑応答では、制限時間まで多数の参加者が、テレビ局や武田氏の仕事などについて積極的に質問していた。講演を聴いたつくば市在住の女性は「災害時の放送は改善の余地があると感じた。停電のために市販のテレビにバッテリーをつけるなど、放送が伝わるための仕組みを整備することの重要性にも気付かされた」と話した。

留学生懇談会 留学生と教員が交流

山田信博学長が主催する留学生懇談会が10月19日に第二エリア食堂で行われた。このイベントは本学の留学生を歓迎し、学内外の支援者との交流を目的としており、教員だけでなく国際交流団体の関係者も参加した。

最初に山田学長は「毎年留学生と話し合うことができるこのイベントがあり、とてもうれしい。今年は3月11日の大震災で不安な気持ちを持っている留学生が安全に勉学、研究ができるよう努力する」と挨拶をした。

懇談会では立食形式で留学生と教員が現在の大学生活について自由に話した。また山田学長と留学生の有志によって本学のメッセージング「IMAGINE THE FUTURE」が英語で歌われた。

懇談会に参加した留学生のヌル・アケマルさん(国総1年)は「さまざまな国から来た留学生との交流で友達ができてうれしい。みんなの前で歌うのが恥ずしかったが、このイベントは本当に意味があると思う」と話した。

辻中豊副学長(国際担当)は「留学生を歓迎する意味がある。しかし、このイベントは留学生だけを参加の対象としている。もっと日本の学生と留学生が交流するイベントを作りたい」と語った。



学長と歓談する留学生たち

坂根正孝	東山和幸	岩本浩二	北脇信彦	佐藤慎一	曾根博仁	杉田倫明
坂本茂	一二三朋子	上原直史	熊谷嘉人	山海嘉之	高橋智	鈴木浩明
佐藤慎一	福田啓子	植松貞夫	桑原俊明	杉田倫明	土子昇	関祐秀
佐藤大輔	藤倉紀子	宇川彰	小松原米	鈴木久敏	堤一隆	曾根博仁
杉田倫明	B E N T O N	内田俊夫	近藤康博	鈴木稔	道本裕大	高橋智
鈴木久敏	Caroline Fern	宇南山弘谷	金野秀敏	関祐秀	生井米	竹村優一
鈴木稔	堀田雅男	潤米保男	坂根正孝	曾根博仁	野崎剛	田辺祐子
関祐秀	榊和子	大石謙亮	坂元暁子	高橋智	萩原利典	土子昇
曾根博仁	増尾弘美	大手昇一	佐藤忍	竹村優一	服部利明	徳岡慶一
高橋智	松下幸三郎	大根田修	佐藤慎一	土子昇	板東享男	中内靖
土子昇	宮越俊一	岡崎一雄	杉田倫明	直江俊雄	東照雄	中川昭
中村昭	宮越リカ	岡村直道	鈴木拓郎	生井米	東山和幸	生井米
生井米	森田仁	小川敬一	鈴木久敏	根本富彦	一二三朋子	西野虎之介
根本乾一	森本浩一	長田裕	鈴木稔	野崎剛	B E N T O N	野崎剛
野崎剛	安武幸雄	尾澤達也	関祐秀	服部利明	Caroline Fern	服部利明
野々村淳	山下勝也	遅野井茂雄	曾根博仁	東照雄	前田大地	原田正剛
波多野澄雄	山田務	貝瀬隆拓	高橋智	東山和幸	増尾弘美	東照雄
服部利明	吉田恵理子	掛札孝子	筑波大学人間学	久武幸司	松本好隆	東山和幸
東照雄	吉水千鶴子	金保安則	類7期同窓生	一二三朋子	宮下善行	一二三朋子
東山和幸	渡辺和夫	神矢良知	辻裕幸	B E N T O N	宮脇美也子	B E N T O N
一二三朋子	【9月】	亀田明	土子昇	Caroline Fern	森本浩一	Caroline Fern
福原行也	阿江通良	川島浩平	長久保博徳	増尾弘美	矢羽々剛	堀謙介
B E N T O N	有波忠雄	川那部保明	長坂邦彦	水谷太郎	山下勝也	前野貴美
Caroline Fern	飯田聖士	川村卓	中沢市夫	宮崎雪峰	湯川光代	増尾弘美
穂積本男	石濱光朗	神田民枝	中澤斉	宮本陽一郎	吉仲崇	増子博保
槇島則子	IRVING LOUIS	菊池信孝	永田友市	森本浩一	米倉敦	溝渕宗秀
増尾弘美	JOHN	北尾倫彦	中山欣司	山下勝也	鷺田由美	森本浩一
松沢宏明	筑波大学医学群	草薨進郎	生井米	【7月】	阿江通良	山口佳樹
森嶋厚行	看護学類5回生	熊谷嘉人	根岸一星	阿江通良	畔上泰治	山崎節雄
森本浩一	一同	小島正徳	野崎剛	阿江通良	阿部生雄	吉岡高志
山下勝也	岩本浩二	小林汎	服部環	赤羽勝雄	天野勝利	【5月】
山田務	植松貞夫	小松原米	服部利明	秋山勝雄	新井保幸	阿江通良
山元俊一	宇川彰	齋藤隆	東照雄	有波忠雄	有波忠雄	有波忠雄
柚木晴美	鵜沢力	坂根正孝	東山和幸	飯田聖士	飯田聖士	飯田聖士
渡邊善巳	内田俊夫	佐々木正興	一二三朋子	池原耕太郎	飯田聖士	石濱光朗
	宇南山弘谷	佐藤慎一	廣瀬雅哉	石橋文雄	石濱光朗	IRVING LOUIS
	潤米保男	佐藤大輔	福島大吉	石濱光朗	石原浩	JOHN
	大手昇一	清水勝彦	B E N T O N	糸川弘	IRVING LOUIS	植松貞夫
	大根田修	志村英夫	Caroline Fern	IRVING LOUIS	JOHN	宇川彰
	岡村直道	下山田芳子	北條宏	JOHN	植松貞夫	宇南山弘谷
	遅野井茂雄	杉田倫明	増尾弘美	植松貞夫	宇川彰	潤米保男
	貝瀬隆拓	鈴木久敏	村田茂	宇川彰	宇南山弘谷	大手昇一
	金保安則	鈴木稔	森本浩一	鵜沢力	潤米保男	大森敏明
	神矢良知	関伸夫	森山泰夫	宇南山弘谷	太田充	岡島隆治
	川那部保明	関祐秀	山浦巖	潤米保男	大手昇一	岡村直道
	川村卓	瀬津栄顕	山口松太郎	江田昌佑	大根田修	貝瀬隆拓
	菊地大介	曾根博仁	山下勝也	大手昇一	岡村直道	角田和男
	菊池信孝	高橋智	山田務	大根田修	貝瀬隆拓	金保安則
	木津孝道	館岡昇一	吉澤敏武	岡村直道	笠原勇二	神矢良知
	熊谷嘉人	土子昇	渡辺雅仁	小内稔	金保安則	川那部保明
	小松原米	土本泰	【8月】	貝瀬隆拓	神矢良知	川村卓
		生井米	阿江通良	柏木道子	川那部保明	菊池信孝
		野崎剛	有波忠雄	金井肇	川村卓	熊谷嘉人
		橋本徹也	飯田聖士	金保安則	菊池信孝	小松原米
		橋本直美	池嶋聖也	神矢良知	熊谷嘉人	坂根正孝
		波多野澄雄	石濱光朗	川那部保明	上妻雅浩	佐藤慎一
		服部利明	伊藤久雄	川村卓	後藤順子	佐藤千晴
		原益男	IRVING LOUIS	菊池信孝	小松原米	佐俣洋一
		東照雄	JOHN	木越清信	坂根正孝	篠崎裕彦



TSUKUBA FUTURESHP 寄付者一覧 (敬称略)

三浦孝一	飯田聖士
森岡隆	五十嵐耕一
森本浩一	五十嵐史彦
矢木達也	石井啓豊
B E N T O N	石濱光朗
Caroline Fern	IRVING LOUIS
【4月】	JOHN
阿江通良	植松貞夫
青柳宏二	宇川彰
赤澤正彦	鵜沢力
飯田聖士	宇南山弘谷
石濱光朗	潤米保男
IRVING LOUIS	大根田修
JOHN	貝瀬隆拓
岩田真也	金保安則
植田雅弘	神矢良知
植松貞夫	川名啓介
宇川彰	川那部保明
鵜沢力	菊池信孝
宇南山弘谷	小松原米
潤米保男	坂根正孝
大手昇一	佐藤慎一
大森敏明	佐藤崇博
岡島隆治	佐藤正美
岡村直道	杉田倫明
貝瀬隆拓	関祐秀
角田和男	曾根博仁
金保安則	高橋智
神矢良知	田中文比古
川那部保明	土子昇
川村卓	生井米
菊池信孝	野崎剛
熊谷嘉人	長谷部紀元
小松原米	服部利明
坂根正孝	東照雄
佐藤慎一	東山和幸
鈴木久敏	平井明代
鈴木稔	深草正博
関祐秀	増尾弘美

寄附のお問合せ・お申込み
筑波大学基金事業室
〒305-8577
茨城県つくば市天王台1-1-1
TEL: 029-853-2178
FAX: 029-853-6020
E-mail: futureship@un.tsukuba.ac.jp
筑波大学基金ホームページ
https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp

バイオeカフェ

学園祭で生物のしくみを語る

遺伝子の不思議を講演

標本の観察やクラフトコーナーも

生物学類と生命環境科学研究科が主催するバイオeカフェが、学園祭期間中の10月10日に第二エリア食堂で開催された。54回目となる今回は「いきものばっかり」生物学類って何やってるの」をテーマに、澤村京一講師(生環)、岩井宏暁講師(同)千葉親文准教授(同)、齋藤康典准教授(同)の計4人を教員を講師に招いた。学園祭期間中、子どもにもわかるよう「遺伝子とは何か」という質問で参加者の興味をそそり、具体的なイメージから話を進めた。



熱心に語る澤村講師

うことだ。この説明に会場は驚きの声が続いた。参加した女子高生は「興味深い話だった。専門的で少し難しい点もあったが、楽しく聞けた」と感想を話した。

他にも、顕微鏡で遺伝学のモデル生物として有名なショウジョウバエの変異体や、海の生物クロイソカイメンとその幼虫の固定標本を観察できるコーナーや、DNAのビーズストラップやカプトムシ・動物細胞などのクラフトを作成するコーナーがあった。顕微鏡のコーナーでは子供たちが食い入るように顕微鏡を覗き込み、クラフトコーナーでは子供から大人まで工作に熱中していた。

劇団SONICBOOM第84回秋公演

一足早いクリスマス

ユニークな舞台演出で工夫

劇団SONICBOOMの第84回秋公演「くりすマス」が10月29、30日に7A105教室で行われた。2日間、計3回の公演で合わせて38人が足を運んだ。今回の公演は序幕「ぶるおぐ」、第1幕「おもちゃやさん」、第2幕「真ッ赤なお鼻のナカイさん」、第3幕「あわてんぼうのどろぼうさん」の演出が進められた。サンタが営むおもちゃ屋に移めることに

なるとクリスマスプレゼントと両方を欲しがる少年にナカイ君は「僕があわてんぼうのサンタと一緒に、クリスマス前にプレゼントを届けてあげる」と約束する。笑いも交えた本格的な

Performing Arts・14 身体広場

「日常からの解放」をテーマに舞う

つくばセンターに異空間を作る

筑波大学舞踊研究室主催の「Performing Arts・14 身体広場」が、10月26日につくばセンターのアイアイモール広場で開催された。14回を迎える今回は、地域の人にも身体表現の持つ魅力を伝えたいという思いから、誰もが気軽に足を運べるつくばセンターでの開催となった。会場には多



「身体広場」を演じるパフォーマーたち

くの人が訪れ、さまざまな現代ダンスを楽しんだ。表題作である「身体広場」は「繰り返される日常に閉じ込められたコロコロワラダ。身体に耳を傾け、感じ、表現することによって自身を解放していく……」がテーマ。白い衣装を着たパフォーマーたちが、白いテープを「繰り返される日常」に見立て、そこから解

放されていく姿を演じた。つくば市から来た女性たちは「寒空の下で真剣に頑張っていたと思う。何年も見ていたが、今回も楽しめた」と感想を語った。パフォーマーの水島晃太郎さん(体専2年)は「この場所で踊るのは初めてだったが、空が見えて開放感があった。楽しみながらパフォーマン

スが出来た」と語った。



大谷奨

1982年に私は北海道から筑波大学(現教育学類)に入学した。仲間

に恵まれ大学生活を謳歌していた私は、ある日、内地の梅雨は嫌だね」と話しかけ、友人を「内地って何だ?」とひどく困惑させてしまった。当たり前前に使っていた言葉が、ここ内地では通用し

ない。確かに北海道から離れてみると色々と気になることが多かった。「大志を抱け」と進取の気性やフロンティアスピリットを強調する一方で、手つかずの広大な自然といった未開のイメージを売出すところと矛盾。そういう小学生の時、開拓百年といった行事があったが、北海道の歴史とは何なのか。

故郷の歴史 心のよりどころに

北海道開拓精神の形成

榎本守恵 著

拓殖精神は幻想に過ぎない。屯田兵制度は保護された官製開拓であり、成功した伊達氏による移住も結局は封建的な土族の紐帯意識によるものである。「北海道は外地ではないにしても、内国植民地であった」。筆者の洞察は当時隆盛しつつあった心性史を先取りするような手法で、開拓当時の北海道移住者の心のあり様に及んでいた。救われた。そして「これだ」と得心し、指導教員に開拓期北海道

「知識情報とメディアの世界」

歴史をたどる資料を展示

「五榜の掲示」や「百科全書」も

を展示する「知識情報と図書館の学び舎」の二部構成で行われた。第一部の展示では明治時代

に発表された「五榜の掲示」や、ディロロやダランベールの百科全書派によって18世紀にフランスで執筆された「百科全書」などの貴重な資料が展示されていた。第二部はパネル展示形式で、知識情報・図書館学類の前身である図書館情報大学の時代から2011年までに行われていたさまざまなイベントの写真が展示されており、当時の懐かしい風景を一度に楽しむことが出来た。

今回の展示は、本学の知識情報・図書館学類と、図書館情報メディア研究科の展示は、古くはメソポタミアの粘土板から新しくは電子書籍まで、古今東西のメディアを展示する「メディアの発展、古代から現代へ」と、図書館情報大学の開学から今年までの写真を

MC展

本学大学院人間総合科学研究科博士前期課程芸術専攻コースの学生による作品展「MC展」が、12月3(土)・11日(日)に、茨城県つくば美術館(つくば市吾妻)で行われる。同コースで洋画・日本画・版画を学ぶ1、2年生35名が日頃の制作・研究の成果を披露する。入場無料で開館時間は9時30分~17時(最終日は14時まで)。

クリスマスライブ

本学アカペラサークルDoo-Wopによるクリスマスライブ「Christmas Live 2011」が、12月17日(土)につくばカピオール(つくば市竹園)で開催される。17時30分開場、18時開演。入場料は前売500円、当日600円(小学生以下は無料)。

体芸カフェ

学内で採れた野菜などを用いた軽食を提供するカフェが、12月5(月)・7日(水)の午後3時~7時、体芸食堂で行われる。芸術専門学群の学生有志が行っているアスレチックガーデンプロジェクトが以前から不定期に企画している「学生カフェ」の一つだが、今回はとんぷりんと共同で行う(11面に関連記事)。

問い合わせ y_29118@yahoo.co.jp (中塚)

大会館書籍部ベストセラー

1	ガリレオの苦悩	東野圭吾/文春文庫
2	モダン・タイムス(上)	伊坂幸太郎/講談社
3	モダン・タイムス(下)	伊坂幸太郎/講談社
4	おくのぼろ道	講談社学術文庫
5	'13 究極の自己分析	坂東三三/成美堂

1位「ガリレオの苦悩」は「ガリレオの苦悩」悪魔の手」と名の通り、悪魔に送りつけられた怪文書をめぐり、邪悪な犯罪者・天才物理学者・湯川学の対決を主軸的なスケールを掲げ、また、松岡浩晃による紀行文集である「おくのぼろ道」も4位にランクインした。11月30日までアルク15%オフフェア開催中。

自転車でめぐる 「つくば再発見」の旅

抜けるような青空の秋晴れの日、風を感じながら自転車をごく活動しやすいこの季節に、普段見ることのないつくばを自転車で巡ってはどうか。自転車で巡るつくばの名所を紹介する。（中島佳奈 長島一真 人文文学類、二宮 健太 原啓一 郎 社会学類、中島光夫 情報科学類）

つくばセンター

木々が生い茂った道をロボットが走り、緑あふれた場所。最先端の研究が行なっている。そのような科学と自然が共存するつくばだが、これを感じずに過ごす人も多いう。今回はつくばらしさを実感できる施設を紹介する。それは国立科学博物館筑波実験植物園とつくばエキスポセンターだ。植物園では普段意識しないつくばの自然や、あまり触れることのない植物まで見ることができ、エキスポセンターでは楽しみながら科学を学ぶことも最先端の研究や専門的な話を紹介する。

「つくばセンター」は、現在「日本固有の植物展」が11月20日まで行われている。しおどしが小気味のいい音を立て、松やライオンアップされるこのイベント。「科学と自然の調和」がテーマのこのイベントが人々を癒やす。まずは学園東大通りを南下し植物園へ。この施設で見ることは、また日によってセミナもあり、植物のまた知らない構造や働きを学べる。入場料は大人400円（子供は半額）だ。

科学と自然に触れる

日本最先端の植物研究がある。加えて園内を職員が案内されている。「筑波山の植物」から、滅多に触れることはできない「絶滅危惧植物」まで展示され、植物の多様性に触れることができる。前から直進し、ペDESTリアンデッキを南下する。松見公園に差し掛かる。ここで少し休憩。日本庭園

「サイエンスシティ」は「つくば市」の最先端の科学と豊かな自然との調和がテーマだ。現在は畜産草地研究所が行った温室効果ガスの発生が少ないう家畜ふん堆肥の研究などが紹介されている。2階ではナノテクノロジーや地球温暖化、宇宙開発、核融合などの未来を担う研究の展示がある。宇宙服や宇宙船内のトイレ、寝

室の展示もあった。また未来のエネルギーなどの構想も説明され、分かりやすく回廊や光のメリーゴーランドと見所は満載だ。この機会にいつも身近にある自転車で出かけてみてはどうか。科学と自然が共存したつくばならではの街並みが待っている。



上＝光に包まれ素敵な時間を過ごせる（昨年撮影）
下＝エキスポセンターで楽しみながら科学を学ぶ

サイエンス大通り

つくばにはさまざまな通りがある。学園東大通りに学園北大通り、学園西大通り……。その中でも目を引くのが、科学の街・つくばを表すかのような名前の「サイエンス大通り」だ。だが学生には身近でなく、あまり知られていない。今回は自転車でその魅力を探る旅に出た。



学園北大通りを走り、イースつくばが見えてきたら左折する。その後20分ほど直進すると、乗馬体験の牧場が目に入る。科学を感じさせない、日常的のどかな風景。だが、ここがサイエンス大通りだ。費やした時間はおよそ40分といったところ。大きな坂道もなく、それほど疲れずにたどり着くことができた。右折すると科学万博記念公園に左折すると「ラーメン街」にたどり着いた。そこで私を出迎えたのが科学の門が出た。麺は中々いい太さで、味はややこってりと言ったところだろう。か。TXができてから娯楽施設が増え、それに伴いラーメン屋が増えた。ラーメンを食べながら店員と話している、つくば市やサイエンス大通りの歴史に触れることもできる。空腹も手伝い、あつという間にラーメンを平らげた。こっぴどいところにいるが、胃がもたれず、評価の高さの理由を感じることができた。さて、満腹になり帰路に乗り、再び牧場に着く。行きには気づかなかったが、研究所があちこちにある。田舎道に見えるが、サイエンス大通りには確かに科学が存在する。自転車をこぐと再び腹が空く。また「ラーメン街道」を訪れるか……。次はどのラーメンを食べようか。

ラーメンから見たつくば史

と直進す

と直進す

北条

四季おりおりの自然に彩られた筑波山を眺めながら、昔ながらの街並みの中を自転車でのんびり走る。普段見慣れたつくばの景色を離れ、生活と自然が調和

「もう一つのつくば」を紹介する。大学を出て、学園東大通りを北へ進む。「日本の道」に指定されている学

ある田中交差点を右折し、桜川を渡る橋を通過し、内町下交差点の正面に見える細い道を進めば、北条商店街に到着した。商店街の道路は細いため、自動車や歩行者への注意が必要だ。北条商店街に着いたら、まずは商店街の中心に位置する案内所「北条ふれあい館」岩崎屋を訪ねよう。北条地区の観光拠点となるこの施設は北条街づくり振興会によって運営されてお

り、北条地区の情報を得たり周辺地域の特産品を購入したりできる。また、明治末期に作られた蔵を利用した店舗も注目だ。一階の力フエでは、街づくり振興会と本学生の共同開発で生まれた「北条米スクリーム」を食べることができる。これは地元特産品の北条米を利用した、もちもちとした独特の食感を楽しめるアイスクリムだ。暖かい季節はもちもちの、寒い時は暖かい店内で溶かしながら食べる楽しみを味わえるだろう。

岩崎屋を出たら、北条商店街の雰囲気を感しながら東へ進んでみよう。商店街には昔ながらの土蔵が点在し、中には宮本家住宅や旧矢中家住宅など、国の登録文化財に登録されている建物も見ることができる。また途中には日本の道百選に選ばれている、筑波山神社

への参拝道「つくば道」の入り口と道標がある。商店街を進んだところにある八坂神社は、北条地区の氏神を祀る神社だ。神社前の三差路を右に進み、突

き当たりの旧常陸北条駅跡から「つくばりんりんロード」に入る。つくばりんりんロードは、かつて土浦市から桜川市までを結んでいた筑波鉄道が廃線となった跡を利用した自転車道だ。このつくばりんりんロードを左（南東）の方向に進み、再発見を楽しんでみよう。

今回紹介したルートの途中には、さまざまな史跡や店もあり、綺麗な景色が見える場所もたくさんある。街の案内板や北条商店街のサイト（<http://www.tsukuba-hoj.jp/>）を活用し、自分なりの「つくば再発見」を楽しんでみよう。

と直進す



筑波山を背景に風情ある町並みを楽しむ



つくばりんりんロードで季節を感じよう

岩崎屋を出たら、北条商店街の雰囲気を感しながら東へ進んでみよう。商店街には昔ながらの土蔵が点在し、中には宮本家住宅や旧矢中家住宅など、国の登録文化財に登録されている建物も見ることができる。また途中には日本の道百選に選ばれている、筑波山神社



ラーメンを食べつつ歴史に触れる

ラーメンを食べつつ歴史に触れる



全体マップ

筑波山 2 宝篋山 5

北条商店街 国道125号 県道53号 県道200号 りんりんロード

筑波大学 筑波実験植物園 筑波中央通り 学園北大通り つくばエキスポセンター つくば駅 学園中央通り 土浦学園線 学園南水郷 学園北水郷 万博記念公園 科学万博記念公園 万博記念公園駅 研究学園駅



田園地帯から宝篋山を眺める

意外と知らない 地元の名所



動物との触れ合いも楽しめる

動物との触れ合いも楽しめる。温水プールに野球場、利用することができる。また、洞峰沼の周囲は1周1050mのランニングコースになっており、日頃の運動不足の解消にもなる。本格的なトレーニングもできる。

スポーツと癒やしを求めて

スポーツで汗を流した後、洞峰公園の豊かな自然の中でゆったりとくつろいではどうだろうか。公園内の至る所に芝生やベンチなどのスペースがあり、寝転んだりお弁当を食べたりすることができる。公園の周

洞峰公園

本学にはさまざまな運動部やスポーツサークルがあり、多くの人が豊富な運動施設で汗を流している。だが、それらのサークルに所属していないが、友達とスポーツを楽しむ、サッカーコート、バスケットボールにバレーボールを、楽しむ体育館までもが、公園で食べるのも1つの楽しみ方だ。

また、洞峰公園には多くの野生動物が生息している。洞峰沼には鴨が泳ぎ、ランニングコースでは飼

宝篋山

筑波連山の最南端、筑波キャンパスから直線距離で4.5kmの位置には、宝篋山(ほうきょう)という山がある。筑波山は市の最北端に位置し、距離、標高ともに数倍が高いのに対し、この山は高さ461mと、気軽に登ることができる。50年ほど前から人が入らなくなり荒れ山となっていたが、8年前に登山道が整備され、再び入れるようになった。ここでは宝篋山までの道と、その登山道を紹介する。

宝篋山へ至る道はいくつかあるが、特につくばりんりんロードを経由するルートがおすすだ。途中の広い田園地帯からは、これから登る宝篋山の全体像を見渡すことができる。県道200号線をつくばりんりんロードで左折し、県道53号線をくぐった先が小田の町だ。

あるいはどこまでも畑が広がる田舎道を気ままに走るなど、未知の道を開拓してもいいだろう。遠くに見える山頂の電波塔を目印にすれば小田にたどり着く。登山道入り口の小田休憩所に自転車を停める。南側

身近にある絶景スポット

家族連れや年配の登山者も多いが、学生に登れないことはないだろう。頂上から関東平野を眺めると、改めてその広大さになるにちがいない。

化学変化「エピゲノム」

エピゲノムとは何か。その研究が生命の秘密とどう関係するのか、深water教授に聞いた。

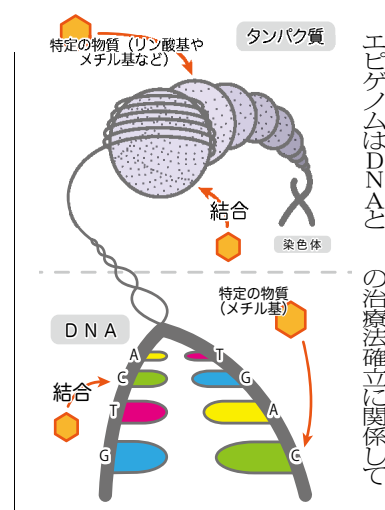
エピゲノムはDNAと

筑波自然図鑑



アオサギ

撮影地=つくばエキスポセンター



より安全な出産の鍵に

私たちの体を変える変化

私たちの体は、環境や生活習慣によって、遺伝子発現が変化する。この変化が私たちの体の構成を変える。だが、一生変化するゲノム情報であるDNAと異なり、エピゲノムは環境などが

より安全な出産の鍵に

私たちの体は、環境や生活習慣によって、遺伝子発現が変化する。この変化が私たちの体の構成を変える。だが、一生変化するゲノム情報であるDNAと異なり、エピゲノムは環境などが

私たちの体は、環境や生活習慣によって、遺伝子発現が変化する。この変化が私たちの体の構成を変える。だが、一生変化するゲノム情報であるDNAと異なり、エピゲノムは環境などが

ラグビー 関東大学対抗戦

33 年ぶりに早稲田大に勝利

早慶を破るのは史上初

ラグビー

抗戦で、本学が1978年
以来33年ぶりに早稲田大学
に勝利した。関東大学対抗
戦は9月10日から始まって
水戸で行われた関東大学対

おり、これまでに昨年3位
の明治大学には敗れたが、
早稲田大学（昨年1位）、
慶應義塾大学（同2位）、



早稲田大の突破を阻む本学選手（写真提供：TSA 武田）

成蹊大学（同6位）に勝利し、10月30日現在、3勝1敗で暫定3位。早稲田大と慶應義塾大両校に勝利したのは、史上初。

本学は堅い防御で早稲田大を圧倒し、試合開始から5分で松下彰吾（体専2年）が先制点をあげた。7人制ラグビーの日本代表に選出された11番竹中祥（同1年）と14番彦坂匡克（同3年）の両ウィングの活躍も光り、前半が終わった時点で18-0。早稲田大の攻撃をタックルで押し返し、後半15分で点を取られるも21-7で勝利した。

大学ラグビーの頂点に立つ早稲田大と慶應義塾大を破るという快挙を成し遂げた理由について、古川拓生（鹿嶋市）で昨年の優勝ク

監督（体育）は「メンタル面が強くなった。勝ちを信じる気持ちで、選手一人ひとりを成長させた」と話した。昨シーズンは両校を含む上位校には敗れていたが、多くは接戦であり勝利へはあと一歩のところまで近づけた。古川監督は、主将の村上大記（体専4年）と副将の中川克信（同の強いリーダーシップのもと練習を重ねた結果、上位校を上回ることでできたところがある。課題点であった反則プレーからの失点も、「規律を守るといふ意識のもと、チームで一丸となって改善してきた」。

古川監督は「スクラムの強化など課題点はまだあるが、規律を守るプレーができれば、筑波大のディフェンスが崩れることはない」と自信を見せる。早稲田大は大学対抗戦では過去34回優勝し、今年3連覇を目指しているラグビーの伝統校。今回の勝利を契機に、これからの試合展開と大学選手権出場にも大きな期待がかかる。

他チームを圧倒している。特に赤崎は10月15日の国士館大戦で2アシスト、10月22日の順天堂大戦でハットトリックを達成するなど、攻撃の要として活躍している。

後期の結果は以下の通り。▽筑大0-0青学大▽筑大2-1駒大▽筑大3-1国士館大▽筑大3-1順

鹿島に健闘も敗れる

リーグ戦は首位と好調

サッカー

ラブである鹿島アントラーズと対戦。健闘したものの、0-2で敗れた。

試合当初、赤崎秀平（体専2年）を中心に攻め込む。鹿島を相手に試合を優位に進め、前半23分にポスト直撃のシュートを放つなど決定機を何度も作った。

しかし前半33分、元日本代表の田代有三に先制点を許してしまうと一転して防戦ムードに。前半38分にU-22の大迫勇也に2点目を許すと、鹿島に一方的に攻め込まれてしまう。その後も反撃に転じることが出来ず、チャンスを作れないまま前半を終えた。

後半、瀬沼優司（同3年）を投入するなどして、試合の流れを変えようと試みる。しかし、選手層の厚い鹿島は後半21分に興梠慎三、後半34分に本山雅志が活躍するなど地方の違いを見せつけ、試合を優位に進めた。本学はボールを支配され続け、苦しい展開だったが、石神幸征（同4年）が豊富な運動量を生かした守備でピンチを何度も救った。石神の活躍もあり、後半を無失点に抑えたものの、反撃及ばず、0-2で敗戦した。

試合後、カシマスタジアムを訪れた多くの関係者から拍手を受け、健闘を称えられた。

第85回関東サッカーリーグ後期日程が、9月9-12月4日に行われている。本学は10月28日現在、前期の結果と合わせて、首位を走るなど好調をキープしている。

後期日程初戦の青山学院大戦こそ無得点で、引き分けに終わったが、その後の3戦では8得点と攻撃面での

鹿島の選手を抜く谷口彰悟（体専2年）

関東大学バスケットボールリーグ戦

女子震災乗り越え優勝

男子近年最高の5位に

バスケット

第61回関東大学女子学生バスケットボールリーグ戦が9月3日-10月23日にかけて国立代々木競技場第二体育館（東京都渋谷区）などで行われた。本学は12勝2敗の成績を修め、3年ぶり16回目の優勝を果たした。

他の上位校とは異なり、1学期は地震の影響により学内の体育館の使用が不可能な期間や、練習時間が短縮された期間もあった。近隣の学校や大学が練習場所を提供してくれた。協力がなければ、今回の優勝はなかった」と大高敏弘監督（体育・教授）は振り返る。

今年度から新しくなったユニフォームを着て順調に勝ち進んだ。例年に比べ、安定したディフェンスで失点を防ぎ、各選手が偏りなく得点した。個人の技術だけでなく、チーム力で勝ち

3日-10月30日にかけてつくばカピオ（つくば市竹園）などで開かれた。1部に所属し、春のトーナメントでは4位の成績を修めた本学は、8勝10敗の5位でリーグ戦を終えた。近年では最高の順位。

吉田健司監督（体育・准教授）は「最終週に主力がけがしてしまっただけで、ここ数年で一番の成績を修めることが出来た。ただ1対1で弱いの、残りの4人の動きも含め、確認していきたい」と話した。11月21日から始まるインカレでは優勝を目指す。



ドリブルする伊集（写真提供：TSA）

全日本学生選手権大会

男子小倉が3度目の優勝

女子遠藤が優勝果たす

柔道

全日本学生柔道体重別選手権大会及び、全日本学生女子柔道選手権大会が10月8、9日に日本武道館（東京都千代田区）で行われた。本学からは、男子が10人、女子が7人が出場した。そのうち、男子は66kg級の小倉武蔵（体専4年）が優勝、100kg級で金子亮平（同

3年）が3位に、女子は48kg級で遠藤宏美（同1年）が優勝、57kg級で武井嘉恵（同3年）、78kg級で菅原歩（同2年）3位に輝いた。小倉は決勝で高上智史（日本体育大）と戦った。互いに技をかけるもなかなか決まらず、延長戦にもつれるかと思われた。しかし小倉がタイミングよく足払いを決め技あり。そのまま抑えて3度目の優勝を果たした。

遠藤は決勝で、塚原唯有（環太平洋大）と戦い、背負い投げで一本勝ちを決め、優勝した。

柔道部の増地克之監督（体育・講師）は「全体的に見るとしっかり自分の柔道でできた人となりが多かった人に分かれた。小倉は昨年負けてしまったこと、後輩の森下が活躍していることで、何としても勝ちたいと思ったことが優勝につながったと思う。遠藤は先月の大会で勝って当然と思っていたが負けてしまった。今回は思い切って挑戦者として臨んだのがよかったのでは」と大会を振り返った。「とにかく自分たちの課題を一つひとつクリアし、追い込んだ稽古をするしかない」と今後の課題について語った。



小倉武蔵

エアロビックス選手権大会

諏訪部が2種目で優勝

シングル3連覇は大会初

体操

第28回全日本エアロビックス選手権大会が10月31日に東京武道館（東京都渋谷区）で開催され、体操部の諏訪部和也選手（体育2年）が男子シングル、ペアの2種目で優勝を果たした。この優勝で諏訪部はシングルで3連覇という大会初の快挙を成し遂げ、今シーズンのワールドチャンピオンの実力を見せつけた。

諏訪部は全日本3連覇、世界選手権への出場権という素晴らしい結果に「自分自身、自分らしい演技ができ

た。若干のミスもあったが結果を残せたことに満足している。来年の世界選手権では競技人生の集大成を見せられるようにしたい」と語った。

体操部顧問の本谷聡監督（体育・講師）は「今夏までのフランス留学のさまざまな経験の成果が、競技結果に表れているようだ。諏訪部は自身の長所を長く理解し、それを最大限生かした演技をしている。それが世界チャンピオンへ、全日本3連覇という良い結果につながったのだと思う」と語った。



鹿島の選手を抜く谷口彰悟（体専2年）

六大学対抗陸上競技選手権 強豪校破り総合優勝

実業団・学生対抗

松下が優秀選手賞に

高橋が関東学生新記録

陸上

第24回六大学対抗陸上競技選手権が、10月1日に本学陸上競技場で開催された。この大会は、本学、順



三段跳で3位の米澤宏明(体専1年)

天宮大学、日本大学、東海大学、日本体育大学、中京大学、男子選手が競う大会で、大学トップレベルの戦いが繰り広げられた。

三段跳で松下翔一(体専

女子 攻撃で奮闘し3位

男子 連敗を重ね5位

バレー

9月から行われていた2011年度秋季関東大学バレーボールリーグ戦が、10月16日に終了した。女子は10勝1敗の3位、男子は6勝5敗の5位で全日程を終えた。

女子は、10月2日の日体大戦をきっかけに試合の組み立て方が向上した。第1・第2セットは、野末夏子(体専4年)・彌永衣利(同3年)が攻撃面で奮闘したが、守備にミスが目立ち、22

全日本学生剣道優勝大会

9年ぶりの優勝果たす

剣道

第59回全日本学生剣道優勝大会が10月23日、日本武道館(東京都千代田区)で行われ、本学が9年ぶり10回目の優勝を果たした。前回の関東学生剣道優勝大会では思わしくない結果だっただけに、選手の喜びもひとしおだ。

3回戦では前大会で敗れた日本体育大と対戦。1対1の引き分けから大将戦となり村上雷多(体専4年)

今回の試合は、4年生の村上、前了斗(同)、神田智浩(同)にとっては引退試合でもあった。前は「集大成としていい結果が残せた。自分の調子はよくはないが、自分が出ることができた」と思っていたが、全体的に流れを作ることが意識した。神田は「思い切った、全部出し切ったつもり。選手になれない4年生もいたが、全員で団結できた。監督への恩返しにもなったと思う」とそれぞれ語り、ま

さに有終の美を飾る形となった。

また、鍋山隆弘監督(体育・准教授)は「キャプテンの村上は仲間の気持ちを引き締め、自身も良い試合をしていた」と村上の健闘をたたえ、ともに、「他の4年生も一丸となって引っ張ってきた結果だ。前回の大会後から毎朝地稽古をしてきたことも一つの勝因だろう」と試合を振り返った。

次の大きな試合は11月20日に行われる新人戦。去年に続き、2連覇を目指す。

3年)が47秒38で、1000の村吉星児(同2年)が10秒73でそれぞれ優勝を果たすなど、多数の入賞者を出した。また、村吉、近藤崇裕(同)、本吉隆(工シス3年)、馬場和樹(体専1年)が出場した4×100リレー、加藤誠也

から攻撃へとつなげるパターンを増やしていききたい」と話した。

男子は、リーグ戦序盤に4連勝し、上位をキープしていたものの出来田敏(体専2年)の故障をきっかけにチームの調子が下がり始め、連敗が目立つようになった。また、体力やコンディショニングにも課題が残るリーグ戦となった。

都澤凡夫監督(体育・教授)は「全日本インカレに向けて、チームとして安定した力を発揮し、負けにくいチームを作る必要がある。そのために、全日本インカレまでの今後1カ月間でディフェンス力を強化していきたい」と語った。

中西康己監督(体育・准教授)は「夏以降、守備の力は上がったが、まだまだ安定感に欠ける。12月の全日本インカレに向け、守備



スパイクを放つ彌永(日本体育大戦)

最後の試合で優勝とMVPを獲得することができた。五輪標準記録も手の届くところにあるので、ロンドン五輪へ出場できるように来季も最高のジャンプをしたい」と語った。

その他の優勝者は以下の通り。▽110リレー・大室

降格免れるも5位

野球

投打噛み合わない

平塚球場(神奈川県平塚市)などで9月10日から行われていた首都大学野球秋季

リーグ戦が、10月24日に終了した。本学は4勝8敗で5位に終わった。

2部降格の危機もあった今季。土浦市営球場(土浦

したほか、男子800リレーは中村康宏(同3年)が1分50秒43で優勝した。そのほか、男子三段跳で伊藤太一(同2年)が16リレー・筑波大(40秒55)▽4×400リレー!

市で行われた武蔵大戦は落とせない試合となった。1勝1敗で迎えた10月10日の第3回戦。2回裏本学は先頭打者の松浦昌平(体専2年)が安打で出塁。内野ゴロと川本真也(同)の安打の間に松浦が3塁に進む。このチャンスに川村卓監督(体育・准教授)が取っ

た作戦はスクイズ。甲津賢人(同)が見事に決め、先制点を挙げた。

先発の久保貴大(同4年)は5回まで無得点に抑えたが、6回に突如乱れる。安打と犠打でランナーを2塁に進められると、ピンチを抑えきれず、同点となる適時打を許してしまう。

休日の過ごし方を聞くといふ。疲れをとるために家に引きこもることが多い。大会の手続きなど事務的なこともやる」とどこまでもトライアスロンに対して真面目だ。

「トライアスロンは自己満足の世界だ。短距離の練習が鍵になるようだ。」



トライアスロン五輪有力候補 椿浩平(体専2年)

分の力を出しきるチャンスをもっといきたい。そのためにオリンピックがどんなものかを見にロンドンに出たい。椿の目は既にロンドンの次を見据えている。

トライアスロンといえは椿浩平、そんな時代が来ることに期待したい。(井上祐貴||地球学類)

勝負強さと挑戦心で世界へ



ベラルーシ国立大学
ロシア語サマースクール
(ベラルーシ)

清沢紫織

この夏、私は猛暑の日
本を逃れ、はるばるベラ
ルーシ共和国のミンスク
にあるベラルーシ国立天
学で開催されるロシア語
のサマースクールに参加
してきました。ベラルー
シはバルト三国の南、ロ

一緒にいることの大切さ

ふるさとつくばゆいまつり

来年3月に開催決定

地域とのつながり作る

本学生が主体となつて
つくる新しい祭「ふるさ
とつくばゆいまつり」が、
2012年3月10日につく
ば市内で開催される。開催
場所は未定だが、地域の企
業などが出店したりライブ
イベントを行ったりする予
定だ。

祭のコンセプトは「つな
がりをつくる」。そのコン
セプトの通り、ゆいまつり
の「ゆい」は「結ぶ」から
名前を取っている。ゆいま
つりで作られたつながりは
祭が行われている時だけで
はなく、祭が終わった後も
続いていくようなつながり
であってほしい、という意
味が込められている。
つくば市には大学生や研

シアとポーランドの間に
位置する国で、旧ソ連構
成国の一つです。旧ソ連
構成国の中ではロシアに
次いでロシア語が広く使
われている国であり、か
つロシアと比べるかに
治安が良く、学費も良心
的であるため、さまざま
な国からロシア語留学を
目的とする学生が集まっ
ている国でもあります。
私が現地で出会った留学
生たちの国籍は、中国・
韓国・ベトナム・マレー
シア・トルコ・イラン・
カナダ・スペイン・イタ
リア・ドイツ・ポーラン
ド・スロヴァキアと実に
多様でした。

ところで「ベラルー
シ」といわれて、皆さん
の頭に浮かぶのはどんな
イメージでしょうか？
かつて「白ロシア」と呼
ばれていたこの国が日本
で話題となるのは、大体
2パターンに限られてい
ます。それはチェルノブ
イル原発事故の被害に関
する話題か「欧州最後の
独裁者」の異名をとる某
大統領の話題。もちろん
新聞を毎日隔々まで読ん
でいる方はこの国がつい
最近までロシアとの国家
統合を目指していたこと
や、現在深刻な経済危機
に陥っていることもご存
知かもしれません。

しかし、そういった
ニュースだけではこの国
の魅力は見えてきませ
ん。例えば、ほとんど知
られていませんが、ベラ
ルーシには世界遺産が3
つもあります。滞在中は
私も週末を利用してその
うちの2つ、ミール城と
ニャースヴィシユ城へ現
地で仲良くなったベラ
ルーシ人の友人たちと
行ってきました。赤レン
ガがかわいらしい中世の
城、ミール城を臨む湖畔
でピクニックをしたり、
改修中のニャースヴィ
シユ城をこっそり見せて
もらったりしたことは忘
れられない思い出になり
ました。

そんな中、現地での生
活で私が一番気に入った
つにするのが目標。「大学
生にとってつくば市は一時
的な生活地域だから、何か
しらの機会がないと帰っ
てくよとは思わない人が多
い。だからゆいまつりがそ
のきっかけになれるように
したい」と船山さんは語っ
た。

その中、現地での生
活で私が一番気に入った
つにするのが目標。「大学
生にとってつくば市は一時
的な生活地域だから、何か
しらの機会がないと帰っ
てくよとは思わない人が多
い。だからゆいまつりがそ
のきっかけになれるように
したい」と船山さんは語っ
た。

名な画家、シャガールの
出身は実はベラルーシだ
という話はご存知でし
ょうか？彼の作品を注
意深く見てみると、故郷
であるベラルーシの風景
が随所に描かれていま
す。彼は夢を離れたフラ
ンスからこの国の不思議
な魅力に惹かれ続けてい
たのです。ベラルーシは
決して華やかな国ではあ
りませんが、どこか人を
引きつける不思議な魅力
をもった国です。(国
地1年)



ミール城で現地の友達と (右が清沢さん)

「つくば井」誕生

学園祭での投票で

本学の学生団体 We M
(ウェム) による企画で、
6月からレシビコンテスト
が実施されていた「つくば
井」が、10月8・10日に行
われた学園祭で決まった。
つくば井は本学の佐藤純
講師(人間)と学生らが「た
くさんの人を巻き込み、つ
くば市の新しいグルメを作
る」というコンセプトのも
と企画した。



グランプリの「つくねと野菜のヘルシー丼」

井がグランプリとなった。
選ばれたつくば井は、今
後商品化が進められる予
定。学食や大学周辺の飲食
店での販売を目指すほか、
フリーペーパーのような形
で市内を中心にレシビを配
布することを検討してい
る。またイベントも行われ
11月6日に「つくば井と世

界の井を食べちゃおう」
を開催。参加者がつくば井
と留学生それぞれの母国の
井を作って食べた。
代表の飯尾充栄子さん
(心理4年)は「つくばの
新しいグルメを作る、たく
さんの人を巻き込む、とい
うコンセプトのほか、学生
としてわくわくすること

31人の卒業生と対話
進路考える機会に

本学のOB・OGと在
学生の交流を目的とした
「キャリア支援懇談会」が、
9月30日に共同利用棟Aで
行われた。三井住友銀行や
JALなどのさまざまな
業界から訪れた31人のメ
ンターとの対話を目的に
100人近くの学生が集
まった。
今回の懇親会は社会学類
のメンター・メンティシ
テムの二環として行われ
た。メンター・メンティシ
テムとは、在学生とOB・
OGの縦のつながりを作る



メンターの話に聞き入る学生 (右)

野の企業に就職するために
はどのような就職活動を行
うべきかなど話が聞け
ていた。また、本学OBや
OGだけに限らず、学園手
造りハムの会やオーケラフ
ロンティアホテルなどのつ
た。
くば市内の企業や、並木中
等教育学校や竹園高等学校
などの教育機関からもメン
ターが招待され、参加者は
向けてのヒントが得られ
た。自分のやりたいことを
見つける参考になった」と
話した。また、購買戦略研
究所サブマネージャーであ
り社会学類OGである岸本
まりさん(平成22年度国共
卒)は「最近の大学生はラ
イフプランなどを考えてい
て、とても意識が高いと感
じる。だが同時に、昨今の
就職活動はとても厳しいも
のになっているように感じ
た。自分の大学時代を振り
返ることもできて、自分に
とって有意義な会になっ
た」と語った。

第35回秋季スポーツ・デー

初種目の缶蹴りが盛況

多くの学生が汗流す

第35回秋季スポーツデー
が10月22、23日に体芸エリ
アを中心とした学内18カ所
の会場で行われ、今年も多
くの学生・職員が汗を流し
た。初日の土曜日はあい
にくの悪天候のため、サッ
カーやテニスなど屋外で行
われる種目を順延したが、
2日目の日曜日は天候に恵
まれ、絶好のスポーツ日和
となった。
今回の一つの目玉は、今
回始めて行われた、学生委
員会企画の缶蹴りだ。各
チームが自陣の缶を守りつ
つ、敵の缶を蹴るチーム制
のもので、缶を倒したり敵
チームを捕まえたりすると
自分のチームにポイントが
入る。50分の制限時間内
に最も多くのポイントを稼
いだチームが優勝だ。午前
の部で優勝した「凛」として
は医学部硬式庭球部の
メンバーで構成されたチー
ム。リーダーのばななど名
乗る女子学生は「テニスで
培ったチームワークを活か
すことができ、練習の成果



ゴールテープを切る石嶋さん

を流すことが出来た。いい
仲間が集まって良かった
と話した。
伝統種目の駅伝も盛り上
がった。学内のループ道を
一部通行止めにし、北は一
ノ矢から南は医学エリアま
でをたすきでつなぐ。男子
は5区間22・83キロメー
トル、女子は4区間14・42キ
ロメートル、男女などの制
限のないミニ部門は3区間
11・89キロメートルの距離
を走る。男子の部で優勝し
たチーム「たのつくまら
受講生」でアンカーを務め
た石嶋秀敏さん(CS1年)
は、「つくばマラソンの受
講生を呼びかけてチームを
作り、1カ月前から週に1
度集まって練習した。昨年
このチームで優勝した際に
『来年も優勝しよう』と目
標を立てたので、その目標
が達成できてうれしい。つ
くばマラソン本番も頑張り
たい」と話した。
スポーツデーを終え、学
生委員会委員長の木暮聖太
さん(物理3年)は「特に
大きな問題もなく終わるこ
とができて良かった。今後
もっと多くの方に参加し
ていただき、スポデーの熱
さを感じてもらいたい」と
話した。



それぞれの想い「息吹いた」

第37回 学内研究企画数増える

東日本大震災の発生を受け開催の自粛も考慮された学園祭が、10月8〜10日に開催された。今年のテーマは「いぶき」。震災を経て本学に息吹いたものや想いを感してほしいという思いが込められた。(中島佳奈「人文学類」、小川玲「ジョーシン」原啓「社会学類」、倉沢美紀「根津彩香」国際総合学類、中島光夫「情報科学類」)

本年度は学内研究企画数が前年度に比べ31から45へ増加。来場者は、模擬店やステージ企画のほか、スバコン見学ツアー、研究室見学など、学園都市の中核に位置する本学らしい企画を挙げた。学園祭の頂点に立つ企画を決める「雙峰祭」は、学内研究企画の「賢謙祭」が持ち主。SUKUBAN BEAUTY「お笑いライブ」で盛り上がった後夜祭の最後を飾ったのは、打ち上げ花火。昨年に引き続き土浦全



後夜祭オープニングセレモニーの様子

出場者は「メチル水銀毒性リスクの軽減」、「漢字変換誤りの自動訂正」などの研究を発表。優勝と高校生賞を獲得したのは「情報デザイン」をテーマに発表した植生孝慈さん(図情1年)で、聞き手を引き込むプレゼン技術が評価された。企画団体のTGN(つくば院生ネットワーク)代表の石田尚さん(社シス2年)は、本学の学術的な風土を生かす学園祭企画の少なさに問題意識を持ち、学研企画の増加に尽力した。「プレゼ

ンバトル」は「発信する能力」を競う。院生らが出場を自指す企画になることを目指して、今後も開催を続けたいと話した。

◆ロボットコンテスト(学研企画)

3棟前で「つくばロボットコンテスト」の決勝戦が行われた。工学システム学類開講の同名の授業の一環で、今年で20年目となる同大会では、計8チームの自立走行ロボットが出場した。

◆アカイフ映像の表現研究(学研企画)

図書情報メディア系の鈴木誠一郎教授の研究室が主催する「アカイフ映像の表現研究」が、2A313教室で開催された。本企画では、現在では見られなくなっている8ミリフィルムなどの表現媒体が展示され、授業で学生が作成した映像が上映された。六本木ヒルズを撮影した21枚の写真から学生それぞれが10枚を選び、ひとつの映像に構成したものなど、訪れた人は、それぞれ異なる趣の作品を興味深そうに鑑賞していた。

◆ソーラークッカー(体芸エリア)

パラボランテナのような形をした銀色の道具の真ん中で、フライパンの上のブラウニーが湯気を立てていた。この道具はソーラークッカーと呼ばれ、太陽の光だけで調理することが出来る。地球環境科学をキーワードに市民と研究機関をつなぐ団体「ジオネットつくば」のOB・OGが、ソーラークッカーを使って調理した食品を販売していた。

◆松美記念(松美ステージ)

社会学類学生有志が主催する松美記念が10月9日に行われた。第一エリアにある松美池の中を学生が走り、その着順を競うイベントだ。

松美記念では1年生による新人戦と、3年生を中心とする本戦の2つのレースがある。新人戦の選手は白Tシャツに「節電」の文字がプリントされた。このレースは、松美記念では1年生が誘った。今年の松美記念について代表の高橋完爾さん(社会学3年)は「1年生がさまざまなアイデアを提案してくれたので、より面白い企画ができた」と話した。

なっている言葉を書いて松美池を走った。本戦は学生がリーダー。ガガや市川海老蔵など今年話題となった有名人にふんして登場、観客の歓声を浴びた。学生ごとに洗濯機を持って走ったり、玉ねぎを食べてから走ったりするハプニングがあり、会場の笑いを誘った。今年の松美記念について代表の高橋完爾さん(社会学3年)は「1年生がさまざまなアイデアを提案してくれたので、より面白い企画ができた」と話した。

がままだんぱくりんに、草むしりをしていて、横では自転車をこぐ学生たちが、ちらっとこっちを見ては過ぎ去っていく。「すでに気になる存在ではあるらしいんです。これが、もっと人が入りやすいような、面白い存在になったらいいな」と、桑井染吉郎こと高田結希さん(同4年)はいきいきと語る。彼らの活動は、畑や花壇の中にとまららない。12月には、芸術専門学群の学生有志が行っているアスレチックガーデンプロジェクト(AGP)とともに、カフェを開く予定だ(5面に関連記事)。とんぱくりんとしては、「生産を感じる『食』を提供したい」という想いがある。ゆくゆくは、彼らの畑で作った野菜を出したいと考えている。枠を取り払い、自らの手で道を切り開くとんぱくりん。畑を見つめる彼らの目は、常に輝いている。(森田聡「社会学類」)



ブロック塀の段差を上げる「かぶとむし」

は、「1年生だけのチームで苦労したが、TAや先輩の協力、徹夜作業のおかげだ」と話した。担当教員の相山康道准教授(シス情)は、「かなりしっかりと動く所まで持ってきてくれた。来年もより良いアイデア、優れたロボットを期待する」と話した。

◆アカイフ映像の表現研究(学研企画)

図書情報メディア系の鈴木誠一郎教授の研究室が主催する「アカイフ映像の表現研究」が、2A313教室で開催された。本企画では、現在では見られなくなっている8ミリフィルムなどの表現媒体が展示され、授業で学生が作成した映像が上映された。六本木ヒルズを撮影した21枚の写真から学生それぞれが10枚を選び、ひとつの映像に構成したものなど、訪れた人は、それぞれ異なる趣の作品を興味深そうに鑑賞していた。

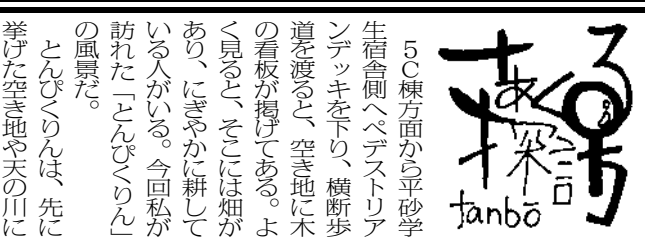
◆ソーラークッカー(体芸エリア)

パラボランテナのような形をした銀色の道具の真ん中で、フライパンの上のブラウニーが湯気を立てていた。この道具はソーラークッカーと呼ばれ、太陽の光だけで調理することが出来る。地球環境科学をキーワードに市民と研究機関をつなぐ団体「ジオネットつくば」のOB・OGが、ソーラークッカーを使って調理した食品を販売していた。

◆松美記念(松美ステージ)

社会学類学生有志が主催する松美記念が10月9日に行われた。第一エリアにある松美池の中を学生が走り、その着順を競うイベントだ。

松美記念では1年生による新人戦と、3年生を中心とする本戦の2つのレースがある。新人戦の選手は白Tシャツに「節電」の文字がプリントされた。このレースは、松美記念では1年生が誘った。今年の松美記念について代表の高橋完爾さん(社会学3年)は「1年生がさまざまなアイデアを提案してくれたので、より面白い企画ができた」と話した。



とんぱくりんは、先に挙げた空き地や天の川にある花壇に、野菜などを植える活動をしている。メンバーは10人前後で、活動頻度は人によってさまさまだ。私が同行した日には3人のメンバーが集まっていた。この日の活動は、看板のニス塗り、ナスと大豆の収穫、そして、空き地の雑草を業者が機械で刈り取る中、鎌を使った草刈り。活動内容はその場で決まる。思いついた人が始め、残りの2人が一緒に動く。そこには決められた「枠」は一切なかった。

メンバーのほとんどは、生物資源学類の学生だ。彼らは学内の農業実習に疑問を持っている。実習に関わらない部分はすべてが準備されている。た人が始め、残りの2人が一緒に動く。そこには決められた「枠」は一切なかった。

がままだんぱくりんに、草むしりをしていて、横では自転車をこぐ学生たちが、ちらっとこっちを見ては過ぎ去っていく。「すでに気になる存在ではあるらしいんです。これが、もっと人が入りやすいような、面白い存在になったらいいな」と、桑井染吉郎こと高田結希さん(同4年)はいきいきと語る。彼らの活動は、畑や花壇の中にとまららない。12月には、芸術専門学群の学生有志が行っているアスレチックガーデンプロジェクト(AGP)とともに、カフェを開く予定だ(5面に関連記事)。とんぱくりんとしては、「生産を感じる『食』を提供したい」という想いがある。ゆくゆくは、彼らの畑で作った野菜を出したいと考えている。枠を取り払い、自らの手で道を切り開くとんぱくりん。畑を見つめる彼らの目は、常に輝いている。(森田聡「社会学類」)

とんぱくりんは、先に挙げた空き地や天の川にある花壇に、野菜などを植える活動をしている。メンバーは10人前後で、活動頻度は人によってさまさまだ。私が同行した日には3人のメンバーが集まっていた。この日の活動は、看板のニス塗り、ナスと大豆の収穫、そして、空き地の雑草を業者が機械で刈り取る中、鎌を使った草刈り。活動内容はその場で決まる。思いついた人が始め、残りの2人が一緒に動く。そこには決められた「枠」は一切なかった。

とんぱくりんは、先に挙げた空き地や天の川にある花壇に、野菜などを植える活動をしている。メンバーは10人前後で、活動頻度は人によってさまさまだ。私が同行した日には3人のメンバーが集まっていた。この日の活動は、看板のニス塗り、ナスと大豆の収穫、そして、空き地の雑草を業者が機械で刈り取る中、鎌を使った草刈り。活動内容はその場で決まる。思いついた人が始め、残りの2人が一緒に動く。そこには決められた「枠」は一切なかった。

とんぱくりんは、先に挙げた空き地や天の川にある花壇に、野菜などを植える活動をしている。メンバーは10人前後で、活動頻度は人によってさまさまだ。私が同行した日には3人のメンバーが集まっていた。この日の活動は、看板のニス塗り、ナスと大豆の収穫、そして、空き地の雑草を業者が機械で刈り取る中、鎌を使った草刈り。活動内容はその場で決まる。思いついた人が始め、残りの2人が一緒に動く。そこには決められた「枠」は一切なかった。

とんぱくりんは、先に挙げた空き地や天の川にある花壇に、野菜などを植える活動をしている。メンバーは10人前後で、活動頻度は人によってさまさまだ。私が同行した日には3人のメンバーが集まっていた。この日の活動は、看板のニス塗り、ナスと大豆の収穫、そして、空き地の雑草を業者が機械で刈り取る中、鎌を使った草刈り。活動内容はその場で決まる。思いついた人が始め、残りの2人が一緒に動く。そこには決められた「枠」は一切なかった。



レース終了後に健闘を称え合う参加者

Who's Who?

NPO 法人「矢中の杜」の守り人」理事長

早川公 さん (国際政経5年)



保存・活用活動に取り組む「旧矢中邸」と早川さん

「つながりがつなかりを呼び、ひよんなやり取りから感動が生まれる場所」へ。筑波山参拝の門前町として江戸時代から栄えた、つくば市北条地区。古い土蔵や道標が残る街並みの中に、木造近代和風住宅「旧矢中邸」がたたずんでいた。北条出身で明治の実業家の矢中龍次郎氏が1938

年(昭和13年)から15年をかけ建設した矢中邸が持つ文化的価値を守り、生かそうと活動に取り組むのが、NPO 法人「矢中の杜の守り人」理事長、早川公さん(国際政経5年)だ。「数値やデータでは測れない、人が生きる意味での経済」に興味があったという早川さんは、国際総合学類での

文化財の価値守りながら活用
人となつながら空間を創る

矢中邸が持つ文化財としての価値をないがしろにせず、活用していけたら――。そんな思いを大事にして活動に取り組んだ。遺産保存の専門知識を持

つ井上さんが、保存に関する多くを取り仕切り、「立ち上げ屋」の早川さんが矢中邸で「何かやりたい」という思いを実現させる。言わば両輪の関係。修復活動はまた道半ばとは言え、今年7月には国の登録有形文化財の認定も受け、今では月に数回公開日を設け、来場者にガイドツアーを提供出来るまでに

なった。文化講座など幾つかのイベントも開催してきた。

活動の一環、月例掃除会は、早川さんが大事にする「修復活動の原点」だ。「近くの米屋さんからもらった米ぬかで磨くと、邸下がぴかぴかになる」という。手伝いに来てくれる地元の人との食事や会話を通じては、季節を感じられる。「筑波山麓に根付く古い物の中の良さを見直す中で、未来を考えていけると思う」と話す。

研究に没頭する傍らNPOの理事長を務め、ボランティアベースでは運営が厳しい現実を肌で感じてきた。現在は「つくばの街づくり」をテーマに博

士論文を執筆中。「30代に入る今、これまでの長い学生の学びを越え、ビジネスのノウハウを身につけたい。活動も2年目に入ったので、矢中邸を100年保たせるために計画を立てたい」と意気込む彼はバイタリティにあふれている。

矢中邸にかける情熱の源泉は何なのか。「北条への愛着、研究対象としての魅力だけでは説明できない」と早川さんは言う。縁に導かれた自分が、仲間たちとともに「帰れる場所」をつくりたいという想いはある。「多くの人が未来への漠然とした不安を持つ今、文化的価値観を確かとして人が集まれる空間を、矢中邸をベースとして作ってきたい。よみがえりつつある邸宅が北条地区活性の確かな礎となり、同時に多くの人の心のふるさとなる。そんな目のために、彼と人々の挑戦は続いていく。(小川玲二社会学類)

編集後記

振る舞おうと決心した10月31日。ハロウィーンのお祭りムードに編集室の中にも緩んだ空気が「みんな気を引き締め……」と言いかけたところにドレスを着た2人の美女(?)が。1人はAさん、そしてもう1人は、栗色の髪にレース付きの黒いドレスに身を包んだN宮君。あまりの変貌ぶりに今日はいいかと思っしまいました。僕の威厳はいつになったら取り戻せるのでしょうか。(編集長・西川大照II社会学類)

次号は

12月5日(月)

発行予定です

ドイツ大統領来学



講演するヴルフ独大統領

1面へ

ラグビー、早稲田大を撃破



早稲田大選手を振り切る竹中祥(体専1年)

8面へ

陸上、六大学で対抗戦



110mハードルで2位となった猪野泰介(体専3年)

9面へ

舞踊研究室「身体広場」



演技で観客を魅了する出演者

5面へ

学内総合

スポーツ

スポーツ

学芸